

(総括評価表〔付表:戦略1〕)

取組みの方向性	活力を創る	戦略	【戦略1】ビッグチャンスを生かす ～県経済の力強い成長をリードします～	施策数	取組数	H24事業数	H25事業数	H24決算	H25予算
				8	20	65事業	73事業	4,673,678千円	6,889,918千円

1 戦略の内容

(1)現状と課題
 経済のグローバル化が急速に進む中で、国際競争を勝ち抜くために国内企業の海外移転などが広がっており、県内企業にもその影響が及んでいます。そのため、厳しい環境にある中小企業の経営支援強化、リーディング企業群の形成や企業集積など、積極的な取組みが必要です。

九州新幹線の全線開業により、関西などからの観光客が大幅に増加しています。今後も、九州の中央に位置するという地理的優位性を生かしながら、自然や歴史・文化、阿蘇をはじめとする観光資源等を磨き上げ、つなぎ、発信し、いかに誘客につなげられるかが課題となっています。

(2)概要
 九州新幹線の全線開業や熊本市の政令指定都市移行という、100年に一度のビッグチャンスを最大限に生かしながら県経済の力強い成長をリードするため、地域を支える中小企業のチャレンジへの支援や、熊本発の新たな産業の展開、企業誘致に積極的に取り組みます。

また、県内の観光資源やおもてなしに磨きをかけるとともに、九州観光の拠点として熊本を訪れ、九州内を周遊する観光スタイルを確立し、観光客の増大につなげます。

(3)体系 (単位:千円)

① 産業力の強化	◆中小企業のチャレンジをサポートする[施策01] ～中小企業の挑戦への総合的な支援～ 【担当部局:商工観光労働部・土木部・出納局】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	6事業	327,926	8事業	1,403,853
	◆創造的企業誘致を進める[施策02] ～研究開発部門等を中心とした企業誘致の強化～ 【担当部局:商工観光労働部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	6事業	126,306	6事業	131,136
	◆熊本イノベーションを進める[施策03] ～熊本発の新製品の創出～ 【担当部局:環境生活部・商工観光労働部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	12事業	238,964	14事業	369,788
	◆フードバレー構想で県南を活性化[施策04] ～県南地域のポテンシャルを生かした産業集積～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部・農林水産部・土木部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	14事業	2,276,727	18事業	2,914,854
	◆起業を応援する[施策05] ～起業化に向けたチャレンジへの支援～ 【担当部局:商工観光労働部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	2事業	16,422	2事業	21,263
	◆福祉を成長産業として支援する[施策06] ～産業としての「福祉」ビジネスへの支援～ 【担当部局:健康福祉部・商工観光労働部・土木部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	9事業	1,080,162	8事業	1,372,188
	◆観光客を呼び込む[施策07] ～九州各県や市町村等との連携による観光誘客の推進～ 【担当部局:知事公室・総務部・商工観光労働部・農林水産部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	12事業	500,208	13事業	568,426
	◆ストーリー性のある観光戦略を展開する[施策08] ～熊本ならではの観光戦略の推進～ 【担当部局:商工観光労働部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	4事業	106,963	4事業	108,410

2 戦略の評価

(1)指標の推移・分析

指標〔単位〕	策定時	H24 〔達成度・増減〕	H25 〔達成度・増減〕	H26 〔達成度・増減〕	目標値(H27) 〔単位〕	前年度からの推移の分析
① リーディング企業育成数〔社〕	1 (H23)	3 <15.0%>			20～30〔社(累計)〕	取組みの開始から3年目となり、支援の効果が現れてきたもの。
② 企業立地件数〔件〕	91 (H20～H23)	30 <30.0%>			100〔件/4年(累計)〕	ターゲットを絞った戦略的な企業誘致と既立地企業へのフォローアップの徹底により、H23年度の34件には届かなかったものの、24年度の目標の25件を上回った。
③ 企業立地による新規雇用予定者数〔人〕	5,299 (H20～H23)	1,213 <22.1%>			5,500〔人/4年(累計)〕	誘致企業の件数に対し、1件あたりの雇用予定者数が少なかったことにより、H23年度の890人を上回ったものの、24年度の目標の1,375人には達しなかった。
④ 【補】 新たな材料(有機薄膜、熊大Mg等)を活用した商品の市場化件数〔件〕	0 (H23)	2 <20.0%>			10〔件:(累計)〕	(有機薄膜)有機EL照明企業の本格稼働や国補助金活用等により商品化が実現。複数の研究開発を展開中で、企業主体の協議会も本格稼働していることから、今後も増加が期待できる。(熊大Mg)技術的問題が残っており、評価データの蓄積など解決に向けて現在取組中。
⑤ 観光客総数〔万人〕	5,723 (H22)	5,920 <98.7%>			6,000〔万人/年:(単年)〕	新幹線開業効果などにより、H24年上半期の観光客は前年同期比を上回った。しかし、7月の熊本広域大水害による被害やその風評被害により、下半期の観光客は前年同期比を下回った。8月以降に風評被害を払拭するキャンペーン等に取り組んだ結果、年間を通しての観光客総数及び延べ宿泊数は増加した。
⑥ 延べ宿泊者数〔万人〕	647 (H22)	663 <88.4%>			750〔万人/年:(単年)〕	
⑦ 【補】 くまモンツイッターフォロワー数〔万人〕	5 (H23)	19 <126.7%>			15〔万人:(累計)〕	くまモン隊等を活用した県内外の活動とその模様を適宜情報提供することでくまモンの認知度が向上し、目標達成。

(2)平成24年度の主な成果
 ●金融機関と経営支援機関の連携強化のため、中小企業の経営課題の洗い出しやワークショップを実施。
 ●リーディング企業が3社に増加。育成企業の新投資への補助制度の創設や各分野の専門人材で結成したチームによる約15社への支援を実施。

(3)平成25年度の推進方針・推進状況
 ●金融機関と経営支援機関が連携して創設したチャレンジサポート融資制度の活用促進。また、新商品開発や異業種転換、起業化のチャレンジへの支援。
 ●リーディング育成企業ごとのサポートチームの結成や専門チームによる継続的な指導・支援。
 ●ターゲット企業の絞込みと重点的なアプローチを図るための知事トップセミナー、産業展示会への出展等を実施。
 ●更なる拠点性の強化に向けた立地企業に対するフォローアップの徹底。
 ●約30基の充電器設置による充電ネットワーク拡充。
 ●次世代マグネシウム合金に関する先端技術・実証評価設備工場を中心とした事業化への支援。
 ●有機薄膜に関する共同研究の推進と協議会会員企業による開発・実用化のリードアップに向けた支援。
 ●「くまもと県南フードバレー構想」を策定し、県南15市町村と取組みの方向性を共有。
 ●県南地域へ5法人が農業参入し、常用47人、非常用35人の雇用を創出。
 ●関係機関と連携し、創業予定者やベンチャー企業等に対する資金調達支援、インキュベーション施設の提供、投資家とのマッチングを引き続き実施。
 ●起業化に向けたチャレンジを強力に後押しするため、熊本県起業化支援センターの投資上限額の増額を検討。
 ●看護職員の確保・定着に向け、「キャリアアップ支援」「魅力ある職場づくりの推進」「就労支援の充実」の3つを柱に総合的に推進。
 ●保育士の処遇改善に向け、技能維持・向上を支援するための現任保育士研修を継続実施。
 ●熊本を起点に九州の歴史的遺産等を繋ぐ周遊ルートを開発。「期待を超えるぞ!くまもっと県。キャンペーン」等でのPRにより、熊本広域大水害により落ち込んだ観光客数が、12月以降は前年並みまで回復。
 ●くまモンは「誕生祭」への45,100人の集客、約9,300件のイラスト利用許諾、19万人超のツイッターフォロワー数を達成。
 ●7月に「ようこそくまもと観光立県推進計画」を策定。
 ●阿蘇での「スターライトトレッキング」や初心者研修会に併せた野焼き見学ツアーに303人が参加。
 ●キャンペーン「平家遺産をめぐる旅」により郷土料理の販売増加。また、バリアフリー「くまもと再発見の旅」に881人が参加。

(4)戦略を推進する上での課題
 ●チャレンジサポート融資制度の周知。
 ●リーディング企業の育成支援策の充実や経営課題の専門化・複雑化への対応。
 ●これまでの誘致活動の更なる磨き上げ。
 ●熊本の工場が集約場所に選ばれるような取組みの一層の本格化。
 ●企業が最先端のものづくりに取り組める開発環境の構築。
 ●地域ニーズや地域間バランスを考慮した充電器の最適配置。
 ●次世代マグネシウム合金の実用化に向けた産学官連携による継続的な研究や有機薄膜への地域企業の参入支援。
 ●ビジネスにつながる協議会会員のニーズを反映した事業展開や、研究開発案件の事業化、ニーズとシーズの発掘、マッチング等をコーディネートする仕組みの構築。
 ●農家の商工業との連携推進や参入企業の営農安定等に対する支援。
 ●くまもと産業支援財団、県内の各インキュベーション施設、熊本県起業化支援センター等を通じた、各企業の成長段階にあわせた継続的な支援。
 ●資金調達支援の充実のための所要のスキーム見直し。
 ●介護職員のイメージの向上、処遇や勤務環境の改善。
 ●看護職員の不規則な勤務体制や長時間労働、給与、育児支援体制の不備等の労働環境の改善やキャリアアップへの研修支援体制の整備。
 ●九州周遊の促進に向けた、隣県の理解と協力に基づく連携や、熊本市以外の市町村とも連携したアフターコンベンション等誘致の体制整備。
 ●くまモンのブランドイメージ向上、くまモン＝くまもとの関連性強化、関連商品の海外輸出やプロモーションに向けた体制整備。
 ●リピーター客の増加に向けた「熊本観光ブランド」の早急な形成や、市町村及び民間事業者との連携。
 ●各地の歴史文化遺産の見直し・磨き上げ。

(5)今後の方向性
 ●金融機関と経営支援機関の連携による支援を通じた中小企業の経営力の強化。
 ●20～30のリーディング企業創出によるリーディング企業群の形成。
 ●H27年度までに企業立地件数が計100件、うち研究開発部門の立地件数が10件、これによる新規雇用予定者数が5,500人となるよう取組みを展開。
 ●H27年度における次世代自動車の普及目標台数(4,000台)に向けて充電器設置等の環境整備を展開。
 ●次世代マグネシウム合金と有機薄膜の早期の事業化・市場化を展開。
 ●「ネットワークの形成」「情報の共有・発信」「人材の育成」に沿った成果を生む事業展開、マッチングや事業化等を推進。
 ●6次産業化の進展を通じたブランド化、所得向上等の効果創出。
 ●県のインキュベーション施設(夢挑戦プラザ21・県南・県北)を活用し、関係支援機関と連携した創業・新事業創出ニーズの掘り起こしや支援活動を展開。
 ●修学資金貸与により、入学者の定員充足や、介護職員の県内への定着と増加に寄与。
 ●高等技術専門学校でニーズに適った訓練の実施で就職率向上に寄与。
 ●介護・保育所職員のイメージアップや給与等の勤務環境の改善を推進。
 ●観光客数の増大に寄与する旅行商品開発や観光キャンペーンの展開。
 ●年2回以上のスポーツイベント等を誘致。
 ●末永く愛されるキャラクターとなるようくまモンの世界観を構築し、ツイッターフォロワー数が40万人となるよう展開。
 ●温泉、ウォーキング等をテーマとした旅行商品の開発とサイクリング観光の定着化。
 ●くまもと再発見の旅の利用者の増加と歴史・文化をテーマとした観光キャンペーンの展開。

②九州の観光拠点化